

要な検査になると言えよう。

独創点：DSAは血管病変の検索に従来の動脈造影と比べ、簡便性、安全性で秀れ、正確さも劣らず充分

代替し得る。本法が産婦人科領域、特に絨毛性疾患の化学療法施行例の管理に応用可能であることを示した点にある。

## 第5群 卵巣腫瘍・絨毛性腫瘍 I (26~32)

### 26. 卵巣 Common epithelial tumor への実験的 approach

(久留米大)

西田 敬, 片渕 秀樹, 井上 哲朗  
嘉村 憲純, 宮原 研一, 杉山 徹  
小田 高明, 西田 富英, 薬師寺道明  
加藤 俊

約80%の卵巣癌がその表層上皮に由来する common epithelial tumor の範疇に入るにも拘らず、これらへの実験的 approach を行つた報告は極めて少ない。

DMBA 誘発によるラット卵巣腫瘍は腺癌の形態をとり、正確なヒト卵巣癌の replica とは言えないまでも時に極めて近似した組織形態を示す。さらに腹膜播種や血性腹水産生といった生物学的発育態度もヒトの場合と類似している。

estrogen の局所的刺激に対するラット卵巣の表層上皮の増殖性の変化はその腫瘍化能の存在を暗示すると考えられ、また DMBA により発生した腫瘍は concomitant type ではあるがその構成成分はヒトにおける serous, clear cell, 時に endometrioid type との類似性を示した。

本実験腫瘍の微細構造を観察すると、腫瘍細胞は不整形の核や多核, microvili を有し時に腺管を形成する未熟な腺癌と考えられるが, secretory granule と発達した rER を有する serous type の細胞や、融合傾向をもつ secretory granule と glycogen particle を含む mucinous type の腺細胞が区別できた。さらにこれらに混じつて稀にはあるが tonofilament や microridge を有する扁平上皮の性格をもつ細胞も認められた。

以上の如くその未熟性とさらに動物差より本実験系における癌をヒトの癌に正確に対比することはもとより不可能であるが、現時点ではこの DMBA 誘発ラット卵巣癌はヒト卵巣の common epithelial tumor の簡便なしかし唯一の実験モデルと考えられる。

質問

(兵庫医大) 西浦 治彦

粘液嚢を除去して DMBA を付着されているが、どこに、どの細胞に持続的に作用しているのかお考えを教えてください。

あるいはテクニックによつて漿液性あるいはムチン性といったものに区別できるのか。

回答

(久留米大) 西田 敬

質問1. いかなる細胞にガン化作用が及ぶのか。

答) 表層上皮のどれかは不明である。

質問2. Technique により serous と mucinous は異なるか。

答) もちろん手技によりこれらを作りわける事は不可能である。

これらより serous, mucinous, その他から成る腫瘍であると理解している。

### 27. 卵巣腫瘍における術中細胞診断学的意義に関する検討

(長崎大)

荒木 文明, 中島 久良, 村上 俊雄  
村上 京子, 熊谷 淳二, 福居 兼実  
石丸 忠之, 山辺 徹

卵巣腫瘍の術中診断は重要な予後因子の1つであるが、何よりも正確性と迅速性が求められる。そこで、当科において細胞像と組織像が対比できた卵巣腫瘍症例の細胞標本について検討し、腫瘍の組織型を考慮した系統的、鑑別的な細胞診断学的基準を示した。

細胞材料は充実性腫瘍の剖面や嚢胞性腫瘍の内壁を擦過または捺印して採取した。染色は Papanicolaou 染色のほか PAS 染色および Alcian 青染色を行つて鑑別に役立てた。

単純性原発上皮性腫瘍悪性群(漿液性4例, ムチン性8例, 類内膜3例, 類中腎3例, 未分化6例)は、濃染性核の著明な重積からなる腺集群の所見より、良性群(漿液性11例, ムチン性12例, 類内膜1例)との鑑別は比較的容易であつた。そして、多数の乳頭状集群や砂粒腫体(漿液性), 集群辺縁のムチン含有細胞(ムチン性), 広く淡明な細胞質と大型で明瞭な核小体を有

するオパーク状核（類中腎癌）およびシート状配列を示す扁平上皮の混在（類内腺癌）などは組織型の鑑別に有用な所見と思われた。そのほか、類皮嚢胞腫（16例）の表皮細胞や異物巨細胞、Brenner型腫瘍（2例）の島状シートにおける核縦溝、線維腫（2例）のシート状配列を示す紡錘形細胞、甲状腺腫（2例）の rosette 状配列と空隙の好酸性物質などが特徴的であった。胎児性癌（2例）では異型に富む類円形および紡錘形細胞が混在してみられた。また Krukenberg 腫瘍（7例）においては印環型癌細胞の出現が有力な診断根拠になるものと思われた。ほかに中間群腫瘍や類皮嚢胞癌なども検討した。

術中における腫瘍の擦過または捺印標本には組織型に応じた特徴的な細胞所見が認められ、迅速組織診断にかわるものとして有用である。したがって術式や術直後の治療法の決定に利用できるものと思われる。

質問 (久留米大) 葉 清泉

serous cyst adenocarcinoma と mucinous cyst adeno-Ca の PAS 染色の状態はいかがでしたか。

回答 (長崎大) 荒木 文明

mucinous cystadenoma では PAS によく染まっていますが、serous cystadenoma はあまり染まっていませんでした。

質問 (岡山大) 柴 勝美

① 術中凍結迅速標本(組織診)は同時に行われたか。細胞診との長短は如何か。

低悪性度群についての診断はどうか。

② 腹水、被膜の破綻についての細胞診上の検索成績はどうか。

回答 (長崎大) 荒木 文明

① 迅速組織診断は現在行っておらず、比較検討していません。

低悪性度群の診断はかなり難しいが、十分可能だと思われる。

② 腹水細胞が変性のあることが多く、捺印細胞よりも診断しにくいですが、組織型の推定は可能である。

## 28. 薬剤効果判定を目的とした原発性卵巣癌の分類 (名古屋大)

西田 裕一, カサノバ・エクトル

加納 武夫, 太田 正博, 友田 豊

(同・中央検査部) 中島 伸夫

(協栄生命検診所) 牛島 宥

(愛知県がんセンター) 千原 勤

(名古屋第一日赤病院) 宮崎 俊英

(豊橋市民病院) 有井吉太郎

(大垣市民病院) 梅村 鋳三

目的：日産婦卵巣腫瘍登録委員会では、単純性原発癌を漿液性嚢胞腺癌、ムチン性嚢胞腺癌、類内腺癌、類中腎癌、分類不能癌に分類している。この分類は、単に組織学的な特徴による分類にとどまらず、この分類に従って抗癌剤の組み合わせを別にして、治療効果を高めようとする試みにも利用されている。臨床的には、亜分類が治療方法を選別する上で重要な要因となるような分類が、好ましく、そのためには、組織学的特徴による亜分類に分化度による分類を加味したものが期待される。その目的から治療効果を正確に把握するための予後因子の解析を種々行つたので報告したい。

方法：(1) 共同研究グループから収集した症例284例について8種類に分類を行い、それぞれ累積生存率等の検討を retrospective に行つた。(2) 統一プロトコルに従って治療を行つた症例144例について生存期間の検討を行つた。(3) 144例中、死亡例66例について核のクロマチン量等と生存期間の相関、更に一般臨床検査データと生存期間との相関を検討した。

成績：(1) 組織機構の純粋な、漿液性、ムチン性、類内腺癌の間に生存率の有意な差はなかつたが、未分化なものの生存率は悪かつた。(2) 低分化の腫瘍は生存期間と臨床進行期の相関が低く、予後因子中、進行期の占める割合が少い事が推定された。(3) mitosis の数と生存期間の間にあまり強い相関はなかつた。(4) 一般臨床検査 Data 中、赤血球数、白血球数と生存期間との間には相関を認めなかつたが、リンパ球数、総蛋白量と生存期間との間には相関を認めた。(5) 腫瘍細胞の核のクロマチン量及びその分布より、核の大きさ及びその分布の方が、予後との相関が高かつた。

質問 (久留米大) 西村 治夫

組織学的分化度と、mitosis index との間にはほぼ相関があると理解しておりますが、先生のデータでは、前者では予後との相関があり、後者では予後と関係なかつたと結論されておりますが、個々の症例における、組織学的分化度と mitosis index の関係はどのようでしたか。

回答 (名古屋大) 西田 裕一

個々の症例では、mitosis と予後との相関の高いものがあつたが、total なものとしては予後との相関が低かつた。

質問 (慈恵医大) 寺島 芳樹